

北京の図書館

土田 健次郎（文学部助教授）



① 北京図書館（移転前）

中国は書香に満ちた国であった。今も経済上の多くの困難を抱えているわりには、出版には力をいれている。中国の図書館への期待もふくらもうというものである。

しかし実際に中国の図書館を利用した人々は、口々に不満を言う。中国はコネが幅をきかす国である。図書館のような公共機関の代名詞のような所でもそうである。であるから貴重書など見る場合は、せいぜい多方面の紹介状を掻き集めて持参するのにかぎる。どの程度貴重書を閲覧できたかがその人の対中国的実力のように見做され、気が屈するようなことも多い。

いらぬ事で貴重な紙面をつぶしたのは、この一文の内容があくまでも私個人のケースであり、他人にもあてはまる事が三分の二くらいはあろうが全部ではないことを言いたいためである。そしてどの三分の二が他の場合に適用できるの

かも明確にしがたいのである。

私の中国生活の拠点在北京であった。それゆえここでは、私が主に利用した北京の二つの図書館を取り上げる。北京図書館と北京大学図書館、言うまでもなく北京のみならず中国を代表する図書館である。

北京図書館は北海公園の西側に位置する、今は古びているが往時はさぞ華麗に見えたと思われる中国風建物であった（写真①）。その長い来歴は限られた紙数に尽すことはできない。ともかくこの建物は1929年に国立北平図書館と北海図書館が前者の名のもとに合併した時に建てられ、私が行った時には移転の準備中であった。移転先は動物園から北京大学の方に向った白石橋で、私の滞在中は骨組の完了間近であったが、現在はもう移転したとのことである。ただ善本室の移転は保存設備の問題があるため三年後に

なるという。

私が用があったのはこの善本室（善本特蔵閲覧室）であった。完備した目録は無いが、『北京図書館善本書目』（1959年刊）に載せられている書物は、その図書番号で請求できた。私の場合は、北京大学の身分証明証と外事課（外事処）の紹介状、それに北京大学哲学系の教員が共同使用する団体閲覧証（集体借書証）を持参していった。善本室では団体閲覧証は不用であった。荷物をあずけてから館内に入る。善本室に行き閲覧希望を述べると五号楼で手続をしてこいと言う。言われた通りにして再び善本室に赴くと、一部につきカード（索書単）を二枚書けと言う。ほどなく本は出てきた。私が見たのは、宋版を清代に写した『諸儒鳴道』七十二巻と、宋版の程頤『易伝』のマイクロフィルムである。木製の立派な書見台に本を置き、本おさえ二本でページがめくれるのを防ぐ。日本では本の上に物をのせるのを嫌う先生が多いが、ここでは逆にこれが要求される。筆記用具はかなり自由であった。大学院に入り初めて貴重書に接した頃、ある文庫で今は亡き老先生から書物の扱いについて厳しく注意されたことがあったが、その先生がこの光景を見たら卒倒したかもしれない。

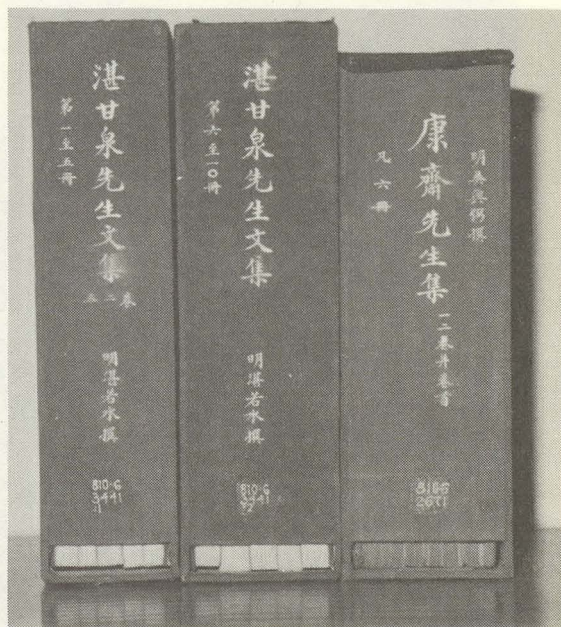
夕方になり本をもどす段になると、係が必ず「また見るか」と聞く。「見る」と答えると出しやすい所に置き、次に行った時にすぐ出してくれる。閲覧の手続の有効期間は一箇月、期間が過ぎたら更新すればよいだけのことである。なお宋版の焼付を頼んでみたところ、今日は責任者がいないから明朝また来いと言う。翌日出直したところ今日も不在と言う。しかし結局その場で複写室への紹介状を書いてくれ、無事購入できた。中国で、それも零本ながら宋版の焼付を手に入れ、しばらくは興奮がやまなかった。

さて次の北京大学図書館は、言うまでもなく私が御世話になっていた北京大学の附属図書館である。ここで私が引いたカードは、二階の文科出納台の普通図書、廊下をはさんで向いあう参攷諮詢部にある旧・燕京大学蔵書、一階の中庭を通過してから入る善本室のものが主で、他は

（李盛鐸の蔵書目録）のコピーも利用した。そのうち善本室はしかるべき紹介状（私の場合は教授）が無いと入れないし、宋版・元版は閲覧不可、明版は館長弁公室で手続をすればよいとのことであった。私はもっぱら中央の文科出納台から清版などを借りては複写室に直行していた。手続は至って簡単で、おかげで当時日本では複写しずらかった譚甘泉や呉康齋の文集（写真②）をはじめかなりのコピーをとった。また二階に「文科研究生・教師閲覧室」があり、ここは入庫できる。台湾の本も相当あり、使いがであった。四階の「中文社科報刊閲覧室」には新中国成立以後の新聞と雑誌がかなり網羅的に収められ、ここも入庫できる。附属する閲覧室には索引類が並べられたいへん便利である。簡単な手続をすれば持ち出して複写室でコピーできるので、せいぜい利用させてもらった。

コピーは出国の際に税関でひっかかるおそれがあると聞かされ、緊張しながら引越貨物の検査に臨んだが格別のことも無かった。部屋のすみに積みあげたコピーの山を見ていると、中国の図書館を弁護したい気もしてくる。

（1985年度 交換研究員）



② 北京大学図書館蔵書